

国語 思考の過程や結果を的確に根拠を示して表現するための基礎的・汎用的な能力に関する系統表

育てたい能力	具体的内容	小学校			中学校		高等学校	
		第 1 学年及び第 2 学年 基礎Ⅰ	第 3 学年及び第 4 学年 基礎Ⅱ	第 5 学年及び第 6 学年 基礎Ⅲ	第 1 学年及び第 2 学年 応用Ⅰ	第 3 学年 応用Ⅱ	第 1 学年 発展Ⅰ	第 2 学年及び第 3 学年 発展Ⅱ
① 表現を理解し、方法を適切に選択する力	ア 目的及び内容の判断	・表現の目的を理解し、何について表現するのかなどの内容を判断することができる。	・表現の目的を理解し、事実について表現するのか感想や意見を表現するのかなどの内容を判断することができる。	・表現の目的や内容を的確に理解し、求められている課題や条件を的確に判断することができる。	・示された課題や条件から、表現する目的や内容を的確に判断することができる。	・相手や場面などから、表現する目的や内容を的確に判断することができる。	・相手や場面、意図などから、表現する目的や内容を的確に判断することができる。	・課題や話の展開などに速やかに応じて、表現する目的や内容を的確に判断することができる。
	イ 方法の判断	・相手に応じて適切な表現を選ぶことができる。	・相手や目的に応じて適切な表現を選択することができる。	・事実と感想、意見などを区別するとともに、相手や目的、意図に応じて、まとめるか詳述するかを判断することができる。	・相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かし、課題や条件に応じて適切な分量や表現の仕方などを選択することができる。	・場面や相手などに応じて、必要な手順や表現の方法などをいくつか選択することができる。	・目的を達成するために必要な手順や表現の方法を適切に選択することができる。	・効果的な表現となるように適切な手順や表現の方法を選択することができる。
② 表現の根拠となる情報を的確に読み取ったり聞き取ったりする力	ア 言葉の意味・用法やきまり等の理解と活用	・語のまとまり、送り仮名や活用する語句、主語と述語との関係などに気付くとともに、日常会話で使う語句の意味を理解し、必要に応じて使うことができる。	・語句の性質や役割の上での類別、指示語や接続語が果たす役割、相手に応じた言葉遣いなどについて理解し、日常の会話や文章で使うことができる。	・語句の変化や文の構成、話し言葉と書き言葉、敬語、比喻や反復などの表現の工夫、文脈における語句の意味、語句の構成や由来などを理解し、必要に応じて活用することができる。	・単語の活用、助詞や助動詞などの働き、表現の技法、語句の辞書的な意味と文脈上の意味、抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語などについて理解し、必要に応じて使うことができる。	・口語の決まり等について習熟するとともに、慣用語・四字熟語などの語句の文脈における効果的な使い方や和語・漢語・外来語などの使い分けなどを理解し、適切に使うことができる。	・口語や文語のきまりや文法、様々な語句の意味・用法及び表記の仕方、類比や対比などを理解し、必要に応じて効果的に活用することができる。	・文種や筆者による文体、修辞などの表現上の特色、文章特有の語句の用いられ方、構成の特色などを的確に理解し、必要に応じて表現に効果的に活用することができる。
	イ 情報の収集・整理	・話や文章、身近な出来事などから、表現しようとする内容に必要な事柄を集めることができる。	・話や文章、関心のあることなどから、相手や目的に応じて、説明したり課題を解決したりするために必要な事柄を調べて取捨選択することができる。	・相手や目的、意図に応じ、内容や方法を考えながら情報検索や取材をし、話や文章の構成や表現に役立つように情報を整理することができる。	・目的や意図、課題などに応じ、大切な事柄をメモするなどして情報を収集して、真偽や適否を見極めながら整理することができる。	・話や文章、社会生活の中から多面的に情報を収集しながら自分の考えを深め、活用を見通して必要な情報を選択することができる。	・目的や場に応じた的確に聞き取ったり本や文章を幅広く読んだりして必要な情報を収集し、内容や表現の仕方について評価したり、話し手や書き手の意図を捉えたりすることができる。	・話や文章の構成や展開、人物や情景の描写、要旨や意図などを的確に捉え、論理性を評価するとともに表現を味わうことができる。
	ウ 情報の分析・集約	・時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動の変化などを捉え、文章の中の大事な言葉や文を書き抜いたり、内容の大体をまとめたりすることができる。	・話のまとまりや段落、事実と意見、中心となる事柄と理由や具体例、人物や情景の描写などに着目し、中心となる語や文、要点などを捉えて引用や要約をすることができる。	・事実と感想や意見、登場人物の相互関係などを的確に捉え、筆者や話し手の意図や思考を想定しながら全体の構成を把握して、要旨をまとめることができる。	・中心的な部分と付加的な部分、事実と意見、文章全体と部分や例示、場面の展開、登場人物の描写や言動などを把握し、それぞれの効果や意味、全体の要旨などを簡潔にまとめることができる。	・話や文章の構成や展開、表現上の工夫などにも注意して内容を捉え、人間、社会、自然などについて考えを深め、自分の意見を表現することができる。	・文章や話の内容を目的や課題に応じた的確に読み取ったり聞き取ったりし、必要に応じて要約や詳述をすることができる。	・目的や課題に応じて収集した様々な情報を活用し、自分の考えを深めたり効果的に表現したりすることができる。
③ 知識や経験を適切に活用したり蓄積したりする力	ア 知識や経験の適切な想起と活用	・話や文章の内容と自分の経験とを結び付けて、思いや考えをまとめたり想像を広げたりするとともに、身近なことや経験したことなどから話すことや書くことを決めることができる。	・経験したことや読書体験などを想起し、表現された登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを想像したり自分の考えを深めたりすることができる。	・目的や意図に応じ、適切な知識や情報、経験などを関係付けて話したり書いたりすることができる。	・話や文章に表れているものの見方や考え方について、適切な知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。	・社会生活に関わる話題や題材などについて、自分の経験や知識を整理して考えをまとめるとともに、新たな資料や視点を加えて話したり文章を書いたりすることができる。	・様々な種類の文章について、書き手の意図を捉え、自分の知識や経験などに照らして共感や疑問を感じたり、思索したりして文章を味わって読み、理解を深めることができる。	・自分の知識や経験に照らし、話題や題材に応じて収集した情報を分析したり、文章を批評したりすることを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。
	イ 新たな知識や経験の蓄積	・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読もうとし、大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞いたり、経験したことや想像したことなどを書いたりすることができる。	・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読もうとし、関心のあることなどについて、話したり書いたりするために必要な事柄について調べ、重要な部分に印を付けたり要点をメモしたりすることができる。	・目的に応じて、複数の本や文章などを選び、比べて読むなどして、考えを広げたり深めたりしようとし、収集した知識や情報を関係付けたり事柄を整理したりして記録することができる。	・話や文章、経験などから適切な情報を得て、自分のものの見方や考え方を広げようとし、文章の構成や展開、表現上の工夫などを捉えたりすることができる。	・話の内容や表現の仕方を評価すること、目的に応じて本や文章などを読むこと、様々な経験を重ねることなどを通して、知識を広げたり考えを深めたり、人間、社会、自然などについて考えたりして、自分の意見をもつことができる。	・話や文章における優れた表現に接して、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとし、話や文章に表現された人物、情景、心情などを味わい、自分の考えをもつことができる。	・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わおうとし、文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。
④ 思考の過程や結果を的確に表現する力	ア 的確な根拠の選択と提示	・話したり書いたりする際に、自分の考えや伝えたいことに加え、理由や関連する事例を挙げることができる。	・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げて話したり書いたりすることができる。	・事実と感想や意見などを区別し、収集した知識や情報、引用、図表やグラフなどを感想や意見などの根拠として用いることができる。	・自分の考えや気持ちを表現する際に、真偽や適否などを見極めて根拠を選ぶことができる。	・話や文章を説得力のあるものにするために、自分の経験や知識などの根拠に加え、資料を適切に引用するなど、目的や意図に応じて効果的な根拠を的確に選ぶことができる。	・聞き手や読み手の疑問や反論を予想し、効果的な表現となるように論拠を選択することができる。	・課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合ったり、自分の考えを効果的に表現するための的確な論拠を選択したりすることができる。
	イ 論理の構成や表現の工夫	・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、つながりのある話や文章にすることができる。	・相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て話したり、自分の考えが明確になるように、段落の役割や相互の関係などに注意して文章構成を工夫したりすることができる。	・目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように構成を工夫しながら話したり、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えたり書いたりすることができる。	・全体と部分や事実と意見、中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えたり、自分の立場や伝えたい事柄を明確にしたりして、話したり書いたりすることができる。	・目的や意図に応じた効果的な構成や論理の展開を工夫するとともに、語句や文を効果的に使ったり資料などを活用したりして、説得力のある話や文章にすることができる。	・目的や意図、条件に応じて、要約するか詳述するかなどを判断し、論理の構成や展開を工夫して表現に生かすことができる。	・課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合ったり、主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成などを工夫して書いたりすることができる。
	ウ 話の振り返りや文章の推敲	・自分の話を振り返ったり、文章を読み返したりして、間違いなどに気付き、直すことができる。	・話や文章の間違いを正したり、より分かりやすい表現となるように補ったりするとともに、互いに発表し合ったりして考えの明確さなどについて意見を述べ合うことができる。	・話や文章の表現の的確さ、効果などについて確かめたり工夫したりするとともに、互いに発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。	・文の使い方や叙述の仕方、段落相互の関係などに注意して、分かりやすい文章にするとともに、話や文章における根拠の明確さや構成などについて交流し、優れた表現や助言などを表現に役立てることができる。	・書いた文章を読み返し、文章全体を整えるとともに、書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てることができる。	・話や文章の内容、表現の仕方などについて自己評価や相互評価を行ったり、優れた表現に接してその条件を考えたりして、自分の表現に役立てることができる。	・話や文章における様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合ったりして、自分の表現や推敲に役立てることができる。
参考となる指導例	言葉に注目して読もう	感謝の気持ちを伝える手紙を書こう 季節のよさを伝える新聞を書こう	友達に読んでもらいたい本を紹介しよう（書評対戦）	根拠について考えよう 友達の魅力を紹介しよう 表現に注目して朗読しよう	いにしえの心と語らう	聞くことを通じて得た情報を整理 活用する	叙述を基に人物像について話し合おう	

一連の学習過程